



宮田小だより



6月号 No7 令和2年6月23日
市川市立宮田小学校

自分たちの学校生活を自分たちでよくする ～今こそ積み上げてきた 特別活動の強みを生かそう～

校長 本多 妃佐子

6月1日からの分散登校や短縮授業を経て、22日より学校の教育活動が全面再開されました。月曜日、本降りの雨ということもあり、午後までの授業についていけるのか、不安を抱えた子供も多いと思われます。心なしか、登校時の子供たちの顔が下向きだったように感じたのは私だけでしょうか。

さて、保護者の皆様には「休校中の様子、今後の学校生活に関するアンケート」の回答にご協力いただきありがとうございました。結果につきましては、別途報告させていただきます。子供たちにも休校中の生活についてアンケートを行い、実態の把握をしました。「**新型コロナウイルスに感染しないか心配**」「**運動不足で、これまでのように学校の生活ができるか不安**」「**勉強についていけるか**」「**友達とうまくやっていけるか**」など、半数近くの子供が不安を抱えていることがわかりました。〔6/11、12調査 質問紙 対象2～6年〕

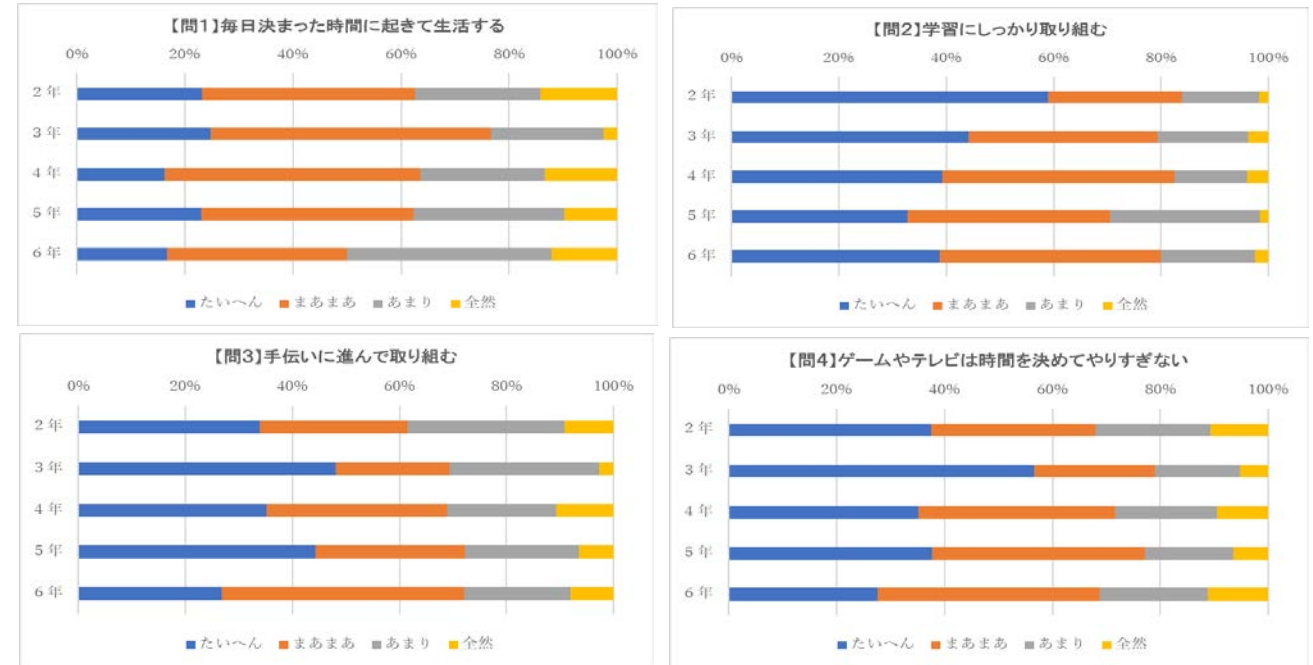
何よりも子供たちの不安を解消し、心の安定を図り、希望や目標をもって学校生活や学習活動に取り組むことができるようにすることが最重要課題であると確認しました。

熊本市のある小学校では、学校再開前に「**友達が抱えている悩みや不安を共有し、解決するためには今どのようなことができるか**」を、遠隔授業で話し合ったそうです。(公立学校でICTを活用した遠隔授業、なんともうらやましい。市川市でも早急に対応しているところです。)すると、「**部屋の換気をする**」「**外から帰ったらうがい、手洗いをする**」「**毎日10分間縄跳びをする**」「**自分がやりたい係を決めておく**」「**友達の名前を覚える**」など、意見が出てきたそうです。話し合ったことをもとに、自分が休校中に取り組むことを一人一人が意思決定し、16個のマスに書いてビンゴを作って実践したとのこと。

子供たちは、生活や学習において、指示されたことや与えられたことをやるだけでは、どうしても「**やらされる**」感じになり、やる気がなくなったり、**反抗的になってしまったり**します。**自分でめあてを立て、やることを決める。計画を立てて、自己評価しながら取り組む。**そういったことを通して、主体的な取り組みとなります。また**決めたことを頑張ってみることで達成感や充実感を得て、さらなる意欲につながっていきます。**こうしたことは再開後の学校生活でも言えることではないでしょうか。

宮田小の学校教育目標「**みんなで創ろう楽しい学校**」は、まさに**自分たちの学校生活を自分たちでより良くする、どのようなことができるか考えて工夫する姿**を現しています。これまで、特別活動で培ってきた学級会 係活動 委員会活動 クラブ活動 縦割り活動などを通して、今だからこそ、こうした自発的・自治的な活動の充実が求められているのだと思います。

休校中の児童生活アンケート



およそ6割の児童が「毎日きまった時間に起きて生活することができた」と答えています。午前中は課題や学習に取り組み、午後からは比較的自由に過ごしたり、公園や屋外で運動を心掛けたりしたと記述しています。若干高学年で「昼夜逆転してしまった」「はじめは守れていたが次第に守れなくなった」とありました。学習についてはおよそ8割の児童が計画に従ってできたと答えています。「お手伝い」については、「洗濯物をたたんだ」「料理を作った」「弟妹の面倒を見た」の順で取り組めたようです。「今まで手伝ったことがなかったが、やってみて自信がついた」とも答えています。「ゲームやテレビの視聴」は、気を付けて取り組んでいたことがわかります。「時間を決めた」「やることが終わってから」等の家族間の約束事が守れたようです。反対に3割の子供が、「できなかった」と自己評価をしています。「視力が落ちた」と心配する子もいました。

待ちに待った「給食」が開始

およそ4か月ぶりに給食が再開されました。1年生は、保護者ボランティアのお手伝いをいただきながら、初めての盛り付け・配膳・片づけをしました。メニューはポークカレーライス ヨーグルト 牛乳の簡易給食ですが、一口食べたときに、「ああ、これが給食だ。」と、うれしくなりました。3年生に、「給食はどうでしたか。」と尋ねてみると、「おいしかったです。」「もう少し食べられる感じがです。でも、こんな状況ですから。」と、答えが返ってきました。さすが、宮田っ子！です。



登下校の交通安全

1年生はまだ登校になれていないため、送ってくださった保護者の方と別れるときに、不安そうな表情を浮かべる子もいます。朝、正門に立っていて、危険な場面に2度会いました。一度目は、歩行者用信号が点滅しているときに、慌てて斜め手前から走って横断した子がいました。運転者からは見えない角度でしたので、車が走り出し大変危険でした。歩行者用信号は、短時間で青になりますので、点滅したら、慌てないで次を待つようしてください。二度目は、歩行者用信号は青でしたが、緊急車両(救急車)が通過することがありました。上学年は止まったのですが、走ってきて止まらずに渡ろうとした子がいました。救急車は速度を落とさず走行していたので、大事には至りませんでした。事故は心に余裕がないときに起こりがちです。視野を広げて「自分の身は自分で守る」子にしていましょ。

